実践報告

さいたま市の動物飼育支援事業と獣医師会の報告書

中川　美穂子

１　獣医師会との連携の始まり

さいたま市教育委員会は獣医師会と協力して「さいたま市学校飼育動物飼育相談・巡回診察治療」事業を行っている．これは，大宮市での学校のうさぎに関わる不幸な事件をきっかけに，教育委員会が獣医師会に支援をもとめて平成 10 年から始まったのもので，現在は自治体統合によりさいたま市の事業になっている．

２　獣医師会の活動内容

獣医師会は毎年教育委員会と一緒に全校をまわり，飼育指導・無料診療などを行い，求めに応じて授業支援している．毎年度期末には，活動の内容をまとめ，また巡回時の学校のアンケートなどから，その飼育状況の統計をとり，報告書を作成し市に提出して，課題解決の方法を提案しているが，今回，その報告書ならびにアンケート結果を本誌に提示させていただいた．

なお，さいたま市教育委員会主催の，夏の教員研修で，必ず教育委員会がその獣医師会の事業報告書とアンケート結果について教員に配布し，内容説明して，獣医師会との連携，改善方法を提示している．この教員研修は，平成 10 年（大宮市）から始まり，13 回目の今年度の内容は右表の通り．

ふれあい時には，11 班に分けた教員に，各班，動物と獣医師会員がついて交流したが，教員の方々はいつまでも，担当獣医師を囲んで話しあっており，「獣医師と先生方の関係が親密になってきた」と主催者は成果を感じ喜んでおられた．

３　動物介在研究校指定

数年前からさいたま市教委は，２校ずつを動物介在教育研究校に指定して，２年目には学校公開で発表を行っているが，この教員研修でも，指定校が事例発表を担当している．

研究指定校実施当初の発表では，小学校は，飼育活動を教育に位置づける試みに戸惑っておられるようにも見えたが，年数と実践校が増えるにしたがって内容が充実し，実践校では，その教科に位置づけた飼育活動の子どもたちへの影響に喜んでおり，今年は，その中でソニー教育財団の「ソニー子ども科学教育プログラム」実践事例募集に応募する学校もあるとのこと．

連携事業として，お互い予算的には厳しい面もあるが，まずは行政，教師，獣医師（動物病院）の３者の信頼関係と，飼育の意義の共有が重要なので，良い方向と感じている．

（全国学校飼育動物研究会事務局長／社）日本獣医師会学校飼育動物飼育支援対策委員会副委員長）

7 月 22 日（木）午後　午後１時から５時
場　所：さいたま市職員研修センター（さいたま市見沼区）
内　容：
研究発表　（海老沼小学校，鈴谷小学校）
講演「言葉では伝えられない～こころ・命・脳をはぐくむ教育～」
講師/中川美穂子
ふれあい実習　指導/中川美穂子とさいたま市獣医師会員 22 名
参加者：さいたま市立小学校の教職員（含む管理職・104 校から 120 名），獣医師会員（22 名）
主　催：さいたま市教育委員会　協力：さいたま市獣医師会　後援：全国学校飼育動物研究会

平成21年度 学校飼育動物巡回診察治療に係るアンケート報告（回答数104校）

注：昨年度回答数は102校

設問 1　現在校内で動物を飼育していますか。

はい：92校（昨年と同数）	いいえ：12校（昨年比2校増）

注：**いいえ**にはアンケート回答後に飼育が無くなった2校を含む。

設問 2　学校における動物飼育に意義があるとお考えですか？

意義がある：99校(昨年比3校減)
あまり有用とは思わない：5校(昨年度は0校)

注：「あまり有用とは思わない」は両方をチェックした2校と「どちらとも言えない」と記載した1校を含む。5校のうち飼育が無いのは1校である。

設問 3　「意義がある」とお答えの場合、そのお考えを簡単にお書きください。

別表１を参照

表１;現在飼育が無く「意義がある」とした学校の設問３の回答（別表１に含まず）

A校	動物をいたわる大切さを教える。 命の大切さを教える。
B校	生き物への愛情や命あるものへの慈しみを育成することにおいては意義があると考える。
C校	動物の飼育という体験活動を通して、その成長を喜んだり、生命の大切さを学んだりするとともに、生命を愛護しようとする態度を育むことができる。
D校	動物を継続的に飼育することにより親しみの気持が深まり、生命の尊さも感じさせることができる。また動物の立場に立った見方、考え方ができるようになり責任感が育つ。
E校	身近な動物に興味、関心をもち、それらの生命や成長に気付くと共に、大切にすることを直接体験から実感できるから。
F校	たった1頭のうさぎだが生き物の大切さや、世話することの大変さがわかる。（飼育委員会）
G校	生き物の世話をしたり直接ふれたりすることは命の大切さ、尊さを実感させる上で意義がある。 本校は、現在諸事情により飼育していないが検討中である。
H校	生命の大切さを学ぶことができる。育てることで他者に対する優しさ、思いやりを育てることができる。
I校	動物愛護の観点から心情面で育つものがあると考える。
J校	生活科、理科等を中心に強化などの学習の中で児童が実際に動物にふれあうことや飼育活動をすることで自然への理解、環境への認識がより深まると考える。
K校	生命あるものを育てることは相手を思いやる心につながり情操教育を行う上でとても意味のあることと思う。

設問 4　「あまり有用とは思わない」とお答えの場合、そのお考えを簡単にお書きください。

表２；あまり有用とは思わないと答えた学校の設問4の回答

L校	児童生徒の障害が重度である場合が多く、これに呼吸管理に配慮が必要であるため。

M校	＊回答なし
N校	動物飼育を通して、生命尊重等を感じ取らせることができると思う。 上記のことが、一部の児童に限られることや動物にとってよい環境で飼育されると思わない。
O校	本校の場合、飼育舎が網で囲われ、中にいる鳥の様子がよく見えていないことと、一部の高学年の平日の世話のみに限定されているので。（方法によるが・・・）
P校	飼育動物の病気の人への感染、児童のアレルギーへの保護者の不安を解消する必要がある。休日の世話の負担解消を検討する必要がある。

設問 5　現在の動物飼育担当の先生の人数は何人ですか。それぞれ担当何年目になりますか？
また、任期は決まっていますか？

表3　設問5の回答

			50%	昨年比
人数	１人	4校		－3校
	２人	39校		＋16校
104校で	３人	41校		－7校
100%	４人	9校		－1校
	５人以上	4校		－3校
	無回答	7校		＋4校
在任	１年目	131人		－12人
	２年目	53人		－5人
全261人で	３年目	35人		＋5人
100%	４年目	20人		0
	５年以上	22人		＋5人
	無回答	7校		＋6校
人数計		261人	50%	－10人
任期	不定	70校		＋6校
	１年	15校		＋2校
104校で	２年	0校		0
100%	３年以上	0校		0
	無回答	19校		－2校

設問 6　飼育動物の種類と各頭（羽）数をお教え下さい。　（哺乳類と鳥類）

表４　飼育されている動物の頭（羽）数

動物種	オス	去勢オス	メス	不妊メス	不明	合計	学校数	平均飼育頭数
ウサギ	72	20	88	3	32	215	70校	3.0
ハムスター	2	0	0	0	0	2	1校	2.0
モルモット	5	0	0	0	4	9	3校	3.0
ニワトリ	21	0	37	0	2	60	16校	3.8
アヒル	0	0	0	0	0	0	0校	0.0
チャボ	13	0	19	0	7	39	13校	3.0
ウコッケイ	19	0	23	0	2	44	18校	2.4
シャモ	0	0	0	0	0	0	0校	0.0
ウズラ	0	0	0	0	0	0	0校	0.0
七面鳥	0	0	0	0	0	0	0校	0.0
カモ	0	0	0	0	1	1	1校	1.0
インコ	0	0	0	0	13	13	2校	6.5
ハト	0	0	0	0	1	1	1校	1.0
不明の鳥	0	0	0	0	0	0	0校	0.0

注１：去勢・不妊がはっきりしない場合はオスまたはメスにカウントされている。
注２：オス・メスがはっきりとしない場合には不明にカウントされている。
注３：鳥類の分類は平成１８年度の県教育局からの調査依頼に準じた。
注４：年度別の増減は別表３を参照。

設問　7　児童・生徒で飼育を担当しているのは？

表５　飼育担当者について（重複回答あり）

飼育担当		校数	50%	昨年比
飼育委員会		86校		＋2校
	１・２・３年生	0校		
	４・５・６年生	5校		
	５・６年生	81校		
生活科（１・２年生）		3校		＋2校
学年活動（４・５年生）		5校		－2校
学級活動		0校		0
その他		4校		－2校
	年長組	1校		
	全児童グループ	1校		
	国語グループ	1校		
	職員のみ	1校		
無回答または飼育が無い		8校		＋8校

設問　8　飼料または飼料代・その他（敷き藁・畜舎の補修など）はどのように捻出していますか。
（複数回答可）

表6　飼育に関する予算・援助について（複数回答）

回答		校数	50%	昨年比
予算で全て賄える		71校		＋3校
予備の予算からも捻出している		5校		－5校
保護者や近隣の協力も得ている		14校		－7校
給食用廃材なども利用している		39校		－6校
一部教職員の負担もある		7校		＋2校
その他（自由記載）		9校		0
	PTAより寄付・援助	3校		
	後援会より捻出している	1校		
	藁は総合学習で育てたものを使用	1校		
	近くの商店から廃野菜等もらう	2校		
	独自の基金がある	2校		
無回答または飼育が無い		10校		＋6校

設問９a　休日の世話などについて保護者の支援または児童の参加はありますか。

表７　動物飼育の休日支援

回答	校数	50%	昨年比
普段の土日もある	2校		－2校
長期休暇にあるが土日はない	12校		－36校
全くない	79校		＋42校
その他（自由記載）	3校		－1校
長期休暇は当番児童と保護者の協力	2校		
4年生の児童が担当	1校		
無回答または飼育無し	8校		＋4校

9ｂ　将来的に保護者の協力を得る、または拡大するための取り組み・計画がありますか。

表８　休日支援拡大の計画

回答	校数	50%	昨年比
ある	1校		0
意志はある具体性は無い	33校		＋3校
必要ない	63校		＋2校
無回答	7校		＋1校

9ｃ　支援がない場合、休日の世話（餌やりなど）はどうしていますか。

表９　支援が無い場合の休日の世話（複数回答）

回答	校数	50%	昨年比
前日に多めに餌を入れておく	62校		＋9校
教職員が交代で世話に来る	33校		＋3校
担当者が世話に来る	46校		＋6校
その他	8校		0
自動給餌器を試験使用	1校		
連休は担当児童を決める	1校		
夏期休暇は5・6年児童で分担	1校		
児童クラブの協力	1校		
用務員の方等	1校		
長期休暇は日番職員	1校		
児童が交代で世話に来る	1校		
3日以上の休みは学年で割り振り	1校		
無回答	10校		＋2校

設問 10　飼育舎での飼育で困った事がありますか。

表１０　飼育舎飼育で困ったことがあるか

回答	校数	50%	昨年比
ある	50校		＋3校
ない	46校		－3校
無回答	8校		＋6校

表１１　飼育で困ったことの内容（複数回答）

回答		校数	50%	昨年比
飼育舎の構造・老朽化など		10校		＋2校
	土床・穴など	3校		
	害虫・野生動物	1校		
	防風・防雨・温度維持	1校		
	分離・補修予算	5校		
動物の世話の管理・運営など		32校		＋13校
	衛生面・掃除など	11校		
	飼料のやり方・調達	2校		
	休日の管理	19校		
	糞尿の処理	1校		
動物の行動・病気など		18校		－7校
	病気・体調管理・老齢化	9校		
	繁殖・分離飼育	5校		
	闘争・けが・死亡	5校		
その他		3校		－4校
	飼育方向性・頭数管理	1校		
	予算	2校		

設問 11a 飼育動物に関して、動物病院を利用した事がありますか。（平成21年度中）

表１２　動物病院の利用

回答	校数	50%	昨年比
ある	44校		＋5校
ない	54校		－10校
無回答	6校		＋4校

11ｂ ないと答えた場合、利用しなかった理由をお書きください。

表１３　動物病院を利用しなかった理由

回答	校数	50%	昨年比
動物病院に相談しにくかった	1校		－1校
無料診療制度を知らなかった	1校		0
養護教諭が対応してくれた	0校		0
時間が無かった	0校		－1校
検討している間に治癒した	3校		0
検討している間に死亡した	4校		0
動物に疾患・死亡は無かった	27校		－9校
動物の疾患に気がつかなかった	9校		＋1校
その他	10校		＋4校
無回答	6校		－5校

（注）複数回答あり。104校で100％

設問 12　獣医師会(獣医師に)ご要望があればお書きください。

表１４　獣医師（会）への要望（抜粋）

巡回診療・担当獣医師・地域獣医師・研修会などに対する感謝。	15校
飼育舎の衛生・温度・防風管理、補修などのアドバイスが欲しい。	5校
動物の疾患相談およびその見極め、受診のタイミングなどのアドバイスが欲しい。	3校
飼育における季節別に留意するポイントなどのアドバイスが欲しい。	3校
巡回診察・治療の回数の増加または時期の変更（4，5月）を希望。	3校
雌雄判別をして欲しい。または方法を教えて欲しい。	3校
飼料の給餌の仕方、敷き藁の購入などについてアドバイスが欲しい。	2校
繁殖について（鶏が卵を産まなくなった等）、その是非などのアドバイスが欲しい。	2校
新規導入についてアドバイスが欲しい。	2校
無料診療についての問い合わせ。	1校
ウサギの爪切りを教えて欲しい。	1校
カメの種類を教えて欲しい。	1校
動物介在の研修を受けているが学校内での目的意識の共有ができない。中川先生の講演など頼めないだろうか。	1校
特になし・その他	20校
無記載	33校

獣医師総合記載欄

コクシジウムオーシスト検査：ウサギ飼育全校で陰性。

表１５　出動獣医師による報告・意見および聞き取り

獣医師記載内容（要約）	校数
全体として良好。	27校
罹患、外傷動物あり。治療・受診指導などした。	16校
爪、蹴爪、門歯など処置した。	10校
無料診療を有効利用している。	2校
無料診療をもっと利用して欲しい。	1校
治療指導したが保定など学校では困難と感じた。	1校
新規導入をして欲しい。または提案・アドバイスした。	13校
新規導入があった。	10校
新規導入を検討している。	3校
雌雄判別を行った。指導した。	4校
繁殖を検討している。またはそれに関する相談を受けた。	3校
分離飼育を指導。	3校
避妊・去勢手術を説明した。	3校
飼育が無くなった。	2校
拾ったウサギを飼育している。	1校
ウコッケイの雛が生まれて順調に育っている。	1校
耐震工事のためしばらく飼育不可である。	1校
飼育はなく、ふれあいセンターでふれあう。	1校
飼育舎（防風、温度管理、広さ、天井など）に問題あり。	12校
飼育舎（床、排水、トンネルなど）に問題あり。	9校
飼育舎の補修が良好であった。	1校
衛生状態の悪化があった。掃除を指導した。	3校
給餌の仕方、動物の手入れなど指導した。	2校
ウコッケイの識別にマジックを教えた。	1校
敷き藁の購入予算に悩んでいる。	1校
夏に虫がわくので病院へ虫を持っていくように指導した。	1校
熱心な先生がいる。	3校
夏期休暇時の世話の負担が大きい。	4校
担当の交代時にとまどいがある。	1校
近隣の獣医師のボランティアがある。	1校
死亡時に困惑があった。追悼会なども一考か。	1校
個体写真などを利用して良好に飼育している。	1校
学年飼育の効果が良好である。	1校
鶏インフルエンザについて質問を受けた。	1校
学校飼育に対する理解が高い。	1校
学校飼育に対する理解が低い。	1校

（注）詳細は別表２を参照

別表１　設問３の現在飼育のある各校の回答（出来るだけ原文に沿った）

1月7日巡回校

桜木小	動物とふれあうことで、生命尊重、情操教育など。
上小小	低学年の生活科の授業での活用。地域の人達に「動物をこのように飼育している」ということを発信できる。
三橋小	生活科学習に小動物とのふれあいという単元があり、日常的にふれあう機会があるため積極的にかかわることができる。また、積極的にふれあうことのできる子の情操面での効果も大きい。
宮前小	体温の温かさに触れる体験は大切である。
日進小	生き物にふれあい、命を大切にする心を育てるため。児童の心に安らぎやゆとりをもたらし、落ち着いた生活を送れるように。責任を持って世話をすることによって自分の役割をきちんと果たす心を育てるため。
大成小	生命観を培う。委員活動に潤いをもたせる。責任と思いやりを養う。
春岡小	家庭では買えないニワトリ、ウサギを身近で観察できるから。
春野小	飼育動物を通して命の大切さや動物愛護の心情を育てる。委員会活動の場や生活科の教材として意義がある。
島小	低学年の生活科の学習において継続的に観察できる。
大砂土東小	小動物の世話を通して命の大切さや優しさを育てることができる。
蓮沼小	小動物の世話を通して思いやり、協力の心や態度を育てることができる。また動物の生死を通じ生命の大切さに気付かせることができる。
大宮小	動物を育てることで育てることの難しさ大切さを改めて実感させる。動物愛護・生命尊重の観点からも必要と考える。
センター付属幼稚園	動物とふれあう世話をする様子を見ることで、生き物に対する愛情を育てたり生命尊重の素地を培う。
東大成小	動物を育てることによって相手を思いやる気持ちや生命を大切にする心を育むことができる。
植竹小	動物飼育を通して命あるものを大切にしようとする精神を育む。
見沼小	生命の尊さや思いやりの心など児童の情操を培う上で。
泰平小	「生命の大切さ」を実際に動物を通して教える。1年生の「生活科」の「生き物観察」に必要となっている。
河合小	動物の世話をすることにより動物と人間を同等に考え、思いやりの心を育てることができる。
城北小	児童の心を和らげ小動物を愛する心や生命尊重の意識が育てられる。
西原小	飼育動物は暑くても寒くても世話などする必要がある。活動を通して忍耐や思いやりの気持ちが育つ。
岩槻小	動物を飼育することで観察をしたり世話をしたり等動物を愛したり生命の大切さを教えることができる。
太田小	命を大切にし生き物の世話をすることで、心を豊かにする。

1月14日巡回校

つばさ小	委員会や生活科などで動物を世話したりふれあったりする中で生命の尊さを実感することができる。
日進北小	命にふれることで生命の大切さを実感できる。命を尊ぶ心が育つ。
宮原小	生き物の世話を通し責任感や命の大切さを知る。 生活科など教科での活用ができる。
大宮別所小	生き物をかわいがり思いやる心を育てる。生命尊重。癒しの場。
指扇北小	情操教育に役立つ。
指扇小	動物とふれあうことができる数少ない機会のひとつだと思う。
大宮西小	動物とふれあう機会が少ない児童も、飼育を通して動物愛護の気持ちを持つことができる。
馬宮西小	生命に対する現実性のある畏敬の念を育てられる。小動物の世話を継続することにより責任感と思いやりの心が育てられる。

馬宮東小	動物愛護の精神を養える。生活科学習教材に役立つ。
栄小	生きた動物を世話することで命について学ぶことが多い。

上里小	生命尊重の教材として重要である。全学年を通して動物とのふれあいの場となる。
東岩槻小	動物と長期間における飼育やふれあいから、命のあたたかさや尊さについて児童が考えることができるため。
徳力小	動物にふれる、かわいがるという行為は心の安定につながると共に、他者理解、生命尊重の心を育てる。世話をすることは思いやりと責任感を育てると考えるため。
慈恩寺小	命のあるものを大切にする考え、感覚が思いやりや社会性を育む基となっているから。

1月18日巡回校

栄和小	児童が命の温かみや支えられて生きることを実感できる。
大久保東小	動物の飼育活動を通じて、児童の生命尊重の心を育てる。動物とのふれあう機会を設ける。動物の世話をすることで児童の責任感、思いやりを育てる。
神田小	児童が動物を飼育することで成長の様子や環境に関心を持ち、生命尊重や生き物への親しみが高まり大切にしようとする心を育成できる。
中島小	身近で動物の成長を観察することができる。また、世話をすることによって、命の大切さを感じることができる。
土合小	動物飼育を通して生命を扱う責任感などを育むことができる。また、低中学年の校内への愛着を高める要因となる。
上落合小	全校児童の動物への生命尊重の心を養う。高学年児童による委員会の勤労活動。
与野八幡小	よく子供が関心をもって見に来ている。「八幡水族館」として環境委員の児童が良く世話をして生命の大切さを学ぶ良い教材になっている。
鈴谷小	生命に触れ、その成長や死を経験できるから。
針ヶ谷小	生命を尊重する態度を育てるのに有用である。生活科の学習に有用である。
木崎小	家庭で動物とふれあうことができない子供たちにとって、命の大切さや思いやりの心を育てる、貴重な機会となるため。
上木崎小	意義はあると考えるがそのための手間、費用、リスクは大きく、学校を管理する立場からすると課題はいろいろとある。
常盤北小	生命の大切さを学べる。（身近で世話することによって）
柏崎小	命の大切さを知る良い機会となる。やさしさなど情操教育に役立つ。委員会の児童など責任感を養う。
城南小	生命尊重。
和土小	動物飼育を通して児童に生命を大切にする心を育むことができる。
親和小	動物飼育で生命の大切さを実感できる。また優しい心を育てる。
川通小	ウサギ等に触り気持ちよさを実感できる。人以外の命を感じる。

1月21日巡回校

向小	生命あるものを飼う大変さがわかる。動物にふれることで温かさを感じその大切さに気付くことができる。図工の絵のモデルになったり生活科の学習に活用したりできる。
尾間木小	世話をすることで観察力や弱い者への思いやりが育成される。
大谷口小	生き物の世話を通して自分が責任を持って仕事をすることの大切さを学ぶ。また生き物（弱い者)を保護する気持ちを養う。
大谷場小	実際に動物に接する機会が得られる。
大谷場東小	生命尊重につながるため。
善前小	児童を取り巻く自然環境や社会環境の変化によって、日常生活の中で生命とふれあい、かかわりあう機会が減少している中で、学校で命の大切さ動物の愛護の心を育てるのに有効である。
芝原小	命の大切さや、動物とのかかわりから、人間と動物との違いなどに気付くことができる。
野田小	児童が直接世話したりふれあったりする中で、生命の大切さ，愛おしさを感じることができる。
大門小	児童が動物とふれあったり世話をすることに意義がある。

大牧小	動物とのふれあいを通して子供たちに命の重さや責任を持って世話することの大切さを学ばせるきっかけになる。しかし本校では飼育委員会の児童しかふれあえないのが現状である。
仲町小	小動物を飼育し、かわいがることにより生命の大切さを知る。飼育委員会には世話をすることにより生命と勤労の大切さを知る。生き物がいることにより心の安らぎや情操教育につながる。
常盤小	動物の世話をすることで相手を思いやる気持ちが育つ。
浦和別所小	飼育を通して命の尊さを教えることができる。
南浦和小	生き物を大切にする心を育てる。
岸町小	生命を大切にする心を培う。動物愛護の精神を育てる。飼育活動を通して責任感を養う。生活科教材としての役割を担う。
高砂小	世話を続けることで、どんな日でも生命が続いていることを、子供が実感している。
西浦和小	生命に関する教育にはかかせない。（動物愛護）
沼影小	動物とのふれあいを通して、生命のぬくもりや尊さについて体験的に学ぶことができる。
辻小	家庭でペットを飼いにくい事情が多く命にふれあう機会が減少している。
文蔵小	児童の中に動物を大切にする心が育ち命を意識する機会が与えられる。
浦和大里小	児童が生き物の命に対して興味を持つようになった。

1月25日巡回校

大宮東小	飼育委員の児童を中心に低学年から高学年までたくさんの児童が休み時間等小屋の様子を見に来ておりウサギやニワトリを大切にしようという気持ちをもてるようになる。
芝川小	動物の飼育活動を通して、生命を尊重する態度を育てると共に、他を思いやり自らの生命も大切にする児童が育つ。
大宮南小	動物を飼ったことのない子供が動物とふれあえるから。動物の世話をすることで生き物を大切にしようという気持ちを養える。
大宮北小	児童が動物の世話をしたりすることにより、心がおだやかになったり命の大切さが分かったりできる。
海老沼小	命の大切さ、思いやりを学ぶことができる。生活科の授業との関連を図ることができる。豊かな情操を育むことができる。
大谷小	身近に動物がいることにより、「命の大切さ」に気付き、世話をすることの楽しさを味あわせることができる。委員会の子供たちは、とても可愛がっている。
七里小	生き物とのふれあいを大切にすることで生命尊重の気持ちを高めたい。
東宮下小	小動物の世話をすることで自分以外の相手を思いやる心を育成できる。動物愛護の心、生命を大切にする心を育成できる。
片柳小	生命尊重、動物や生き物への愛情の気持ちを育てることができる。
道祖土小	小動物の世話を通して生命を大切にする心を育てることができる。
中尾小	命の大切さについて考えさせることができる。動物とのふれあいを通して優しい心が育てられる。動物の世話をすることで責任感が育てられる。
仲本小	動物の世話を通して命の大切さがわかる。
本太小	情操教育に役立つと思う。命の大切さを学ぶことができる。
大東小	命あるものへの思いやりの気持ちが育つと考える。

別表２－１　平成21年度さいたま市学校飼育動物巡回診察治療・各校の状況（H22/1/7実施）

（注）増減は昨年比。飼育数での０表示は昨年度まで飼育があったもの。

学校名	飼育動物数								報告欄
	動物種	オス	去勢	メス	不妊	不明	合計	増減	（現状・指導・治療・獣医師の意見）
a	ウサギ		2				2	-1	頸背部に皮膚炎の個体あり。受診指導。
b	チャボ	1		1			2	0	昨年若い番を導入。繁殖希望があり環境づくり（巣箱、敷き藁、目かくし等）をアドバイス。
	ニワトリ	0		0			0	-2	
c	ウサギ	5	3	4			12	3	土日に自動給餌器を試験使用している。飼育舎が新しくなり、一度しっかり雌雄分離を行っているが繁殖があった。メス同士の仲が悪いということで未去勢のオスの小屋に入れられていた。スペースはあるので分離することをアドバイスした。 手術費用が高額とのことだったが残るオスの計画的な去勢を提案した。
d	飼育なし								児童・生徒の障害のため飼育不可。
e	ウサギ	1		1			2	-1	休日に死亡例があり役所と連絡が取れず困惑したことがある。 飼育舎が3つあり、ひとつが開いているのでウサギの新規導入希望があった。三橋小に連絡を取ってみるようアドバイスした。
	ニワトリ	0		2			2	-1	
f	ウサギ	1		4			5	-1	ほとんどのウサギは写真付きで名札の入った個別飼育になっており親しみやすくなっている。ただし水入れがこぼれやすいので是正を指導。
g	ウサギ	1		1			2	0	長期休暇時の分担に困っている。 セメントトンネルの清掃が困難なようなので封鎖を提案した。変わるものとしてU字溝や木箱をアドバイスした。 オスが長毛で毛玉がひどい。担当の先生が手入れをしてくれそうなので期待する。
h	ウサギ					1	1	0	日当たり、防風、衛生状態良好。
	ニワトリ	2		2			4	-2	もう少し飼育動物がいてもよい。
i	ウサギ			2			2	0	防風対策をしたほうがよい。
	チャボ			1			1	0	学校サイドではウサギの掘った穴埋めに手が回らないとのこと。 衛生状態以前より悪化。（掃除不充分）
j	ウサギ	0		2			2	-3	学級閉鎖の時に当番に困り、担当職員が対応。熱心な先生多数あり。飼育状態良好。もう少し多く飼育して欲しい。
l	ウサギ	2		1			3	1	飼育舎が低学年校舎から遠いこと、水道が近くにないことに困っている。 水道が遠く飼育舎全体の掃除が困難。今年先生が熱心でふれあい用のパドックを作成。
k	ニワトリ	3		9			12	3	土床を改善する予算を望んでいる。
	ウサギ					0	0	-2	ニワトリの近親交配に悩んでいる。 肢に問題のあるニワトリが数羽いる。日当たり不良。もう少し飼育動物がいても良い。
l	ウサギ			3			3	2	
	ウサギ	1		0			1	-1	年末年始の世話に困る。 寒さ対策（廊下から室内へ）を指導。眼の心配、少し出ているか。
m	ウサギ	3		2			5	-3	ウサギの穴掘りが激しい。
	カモ					1	1	0	爪切り、ウサギの雌雄判別を行った。咬傷個体あり、隔離指導。真面目に取り組み雌雄分離飼育も十分に行われており良好。
n	ウサギ	2					2	0	オス2頭のみ。喧嘩するので分離飼育。 6歳と高齢になりつつあるので次世代の導入、繁殖などを検討している。

o	ウサギ	4		3			7	-2	長期休暇中は日直の先生、3日以上の連休は学年割り振りで世話。動物が多すぎ飼育舎が使いづらいと考えている。アニマル基金あり。 オスウサギに喧嘩が多い。現状で問題はないがウサギとチャボの同居ストレスが心配。排水溝が詰まっている。爪切りを行った。
	チャボ	1		3			4	-3	
p	チャボ	3					3	-1	チャボ3羽を1羽毎に分離飼育。鳥インフルエンザについて質問があった。異常が出たらすぐ受診するように説明した。
q	ウサギ	3			1		4	-2	長期休暇時に児童当番がありその時に協力してくれる保護者もいる。5，6年生は課外活動などで世話ができないことも多いので4年生の学年活動を検討したいと考えている。また安価な牧草を求めている。PTA協力費あり。 口腔疾患予防のため牧草が必要だが予算がきびしくこれからの課題。区切りがしっかりしてあり、半透明の衣装ケースを巣穴代わりにしていて、保温、観察面で良好。
s	ウコッケイ	1		2			3	0	インコが1羽でかわいそうと思っている。また飼育舎の老朽化に困っている。ウコッケイの繁殖法を知りたいと思っている。 環境良好、特記なし。
	インコ					1	1	0	
t	ウサギ					3	3	-5	雌雄判別ができないことと、仔ウサギが育たないことに悩む。 捕獲ができず雌雄判別ができなかった。健康状態は良好。
u	ウサギ	0				2	2	0	床が排尿で濡れるため、スノコを敷いてもらうように提案。
	チャボ	0					0	-1	
	ウコッケイ	0					0	-1	
v	ウサギ	1		3			4	0	清掃と小屋の補修をお願いした。
w	ウサギ	1		7			8	-6	無料診療に感謝。防寒対策をお願いした。

別表２－２　平成21年度さいたま市学校飼育動物巡回診察治療・各校の状況（H22/1/14実施）

（注）増減は昨年比。飼育数での０表示は昨年度まで飼育があったもの。

学校名	飼育動物数								報告欄
	動物種	オス	去勢	メス	不妊	不明	合計	増減	（現状・指導・治療・獣医師の意見）
つばさ小	ウサギ	2					2	0	休日の世話を割り振りしている。職員の負担を軽減したいと考えている。 オス2頭名付け：黒ココア、茶ツバサ。 新設校で飼育舎もきれいで良好。
日進北小	ウサギ	1					1	-1	ウサギが縄張り争いで喧嘩して困った。
	チャボ	1		3			4	-1	ウサギ1頭のみになり闘争なし。
宮原小	ウサギ		3	1			4	-1	飼育舎にネズミが出る。
	チャボ	1					1	0	
大宮別所小	ウサギ	3		5			8		飼育数が減ったため以前より良好でした。
	インコ					13	13	-5	
指扇北小	ウサギ		6	2			8	0	獣医師に感謝の意。飼育舎が古く補修したいが予算がない。飼育舎のブロックについて指導を受けて敷いたが、次はその隙間の衛生状態の悪化を指摘された。具体的に教えて欲しいと考えている。
指扇小	ウサギ	1			2		3	0	獣医師に感謝の意。状態良好。
大宮西小	ウサギ	0	2	1			3	-1	新人の教員の方で飼育に意欲がありそう。
	チャボ			1			1	-1	
	ウコッケイ	1		4			5	0	
植水小	ウサギ	1					1	-1	獣医師会に感謝の意。 飼育に対する理解が低い。せっかく飼育舎が立派で好立地なので、ぜひ他校から数頭入れて活用しいて欲しい。
馬宮西小	ウサギ		1	4			5	-2	飼育委員会だけでなく全校児童が飼育に関わる。餌代の募金毎月行っている。 過去のモデル校でもあり、教員の理解が高い。ぜひ校長、教頭が替っても続けて欲しい。
	ニワトリ			3			3	0	
馬宮東小	ニワトリ	2		0			2	-1	休日の世話は主に担当者だが都合の付く職員も。長期休暇は日直が行う。 ウサギ導入のアドバイスをした。
栄小	チャボ	1					1	-1	休日の世話に困る。 ぜひもっとふれあえる動物（ウサギ）を入れて欲しい。
上里小	ウサギ	1		1			2	-1	長期休暇中（特に冬休み）の世話に困る。4，5月の巡回を要望。 環境良好。そのまま維持して欲しい。
	チャボ	3		0			3	-4	
東岩槻小	ウサギ	1		2			3	-2	ウサギが凶暴で人に寄り付かない。 飼育状態は良好。そのまま維持すればOK。
徳力小	ウサギ	1					1	0	ニワトリの爪切りを行った。ウサギ小屋の穴の埋め戻し、風除けを指導した。
	ニワトリ	1		2			3	-1	
慈恩寺小	ウサギ	1					1	0	休日の世話に困っている。 ウサギ小屋の穴の埋め戻しを指導した。
	ハムスター	2					2	2	
	ウコッケイ	1		1			2	1	

別表２－３　平成21年度さいたま市学校飼育動物巡回診察治療・各校の状況（H22/1/18実施）

（注）増減は昨年比。飼育数での０表示は昨年度まで飼育があったもの。「/」は昨年度データ無し

学校名	飼育動物数								報告欄
	動物種	オス	去勢	メス	不妊	不明	合計	増減	（現状・指導・治療・獣医師の意見）
新開小	飼育無し								鳥インフルエンザ等のことがあり児童に世話をさせていなかった。その状態に疑問を持っていた。将来的にはまた飼育したい。
栄和小	ウサギ	1					1	0	ウサギの爪切りの仕方を知りたい。 爪の切り方を指導した。
大久保東小	ウサギ	3		3		3	9	-3	お盆や年末年始の世話に困っている。今後相談することもあると考えている。
	ウコッケイ			3			3	0	
大久保小	飼育無し								過去にニワトリが死んだ時の対応に困った。（鳥インフルエンザの流行時期） ふれあいセンターと連絡を取って、ふれあいをしている。
神田小	ウサギ			1			1	0	ニワトリが産卵しなくなったが寒さ以外の原因の候補を知りたいと考えている。
	ニワトリ			5			5	0	
	ウコッケイ			1			1	0	
中島小	ウサギ	3					3	3	昨年度に飼育無しとなったがその後導入した。 1頭雌雄不明なので判別要望があった。 雌雄判別、オスであった。
土合小	ニワトリ	2		1			3	0	季節ごとの疾患やチェックポイント、簡単な処置法を知りたいと考えている。 学校動物飼育Q&Aの活用を指導。
与野本町小	飼育無し								飼育動物はいない。
下落合小	飼育無し								一昨年より飼育動物はいない。
上落合小	チャボ	2		2			4	2	飼育状況良好。
	(カメ)	3		1			4		カメは参考データ。
与野八幡小	魚類の飼育のみ								病気の時に診てくれる病院がわからず困った。
与野西北小	ニワトリ	2		4			6	-2	
鈴谷小	ニワトリ	2		4			6	-2	子供が生まれること、休日の世話に困る。 動物介在の研修をしているが、その目的や方法を学校で共有できない（担当が替ることも一因）、図々しいと思うが中川先生に講演していただけないかと要望している。 爪切り実施。
	ウコッケイ			0			0	-2	
針ヶ谷小	ニワトリ	0		0			0	-4	羽がたくさん抜けることがあるが季節的なものかという質問あり。
	チャボ					4	4	4	
	ウコッケイ			0			0	-2	ウサギの飼育は無し。
木崎小	ウサギ			2			2	0	ウサギとカメの雌雄判別、冬のウサギ小屋の設備、カメの種類について知りたい。 ウサギの雌雄判別を行った。
上木崎小	ウサギ					1	1	0	具合が悪くなったときに困る。
	ニワトリ	2		1			3	1	
	ウコッケイ					0	0	-2	
常盤北	ウサギ	1					1	0	
	ニワトリ	1					1	-1	
大戸小	ウコッケイ	0					0	-1	
	飼育が無くなった								
北浦和小	ウサギ			1			1	0	飼育動物への効果的な暑さ寒さ対策を知りたいと考えている。
	チャボ					0	0	-1	
柏崎小	ウサギ	1		2			3	0	巡回診察治療の回数を増やしてもらえるとありがたいと考えている。 風除けを作ってあげたほうが良い。
城南小	ウサギ			2			2	0	防風、雨のための処置（例えばU字溝ブロック）をしてあげたほうが良い。
和土小	ウサギ			1			1	-1	逃走の可能性があるため穴を埋めてもらう。

新和小	モルモット	1		1			2	-1	冬季休暇などで休みが続く場合の対応に困っている。また季節による飼育舎の環境整備、給餌の注意点など知りたい。 寒さ対策（藁を敷くなど）。
川通小	ウサギ	1		1			2	0	休日の世話に困っている。
	ニワトリ					2	2	0	防風、寒さ対策（藁など）必要。

別表２－４　平成21年度さいたま市学校飼育動物巡回診察治療・各校の状況（H22/1/21実施）

（注）増減は昨年比。飼育数での０表示は昨年度まで飼育があったもの。

学校名	飼育動物数								報告欄
	動物種	オス	去勢	メス	不妊	不明	合計	増減	（現状・指導・治療・獣医師の意見）
向小	ウサギ			1			1	0	長期休暇は児童が世話するが時々保護者が付き添って手伝ってくれる。3日以上の連休では担当者が世話をしている。 きれいに管理されている。
	チャボ	2					2	0	
尾間木小	ウサギ					1	1	0	軟便の様子。ラビットフードの他、ある時にある野菜を与えているので、便にむらが出るのかもしれない。
大谷口小	ウサギ	1	1				2	0	長期休暇の世話に困っている。 年に2回の巡回診察治療を要望。 1頭がこの冬より右斜頸あり。受診指導した。 土の水はけが悪い。
谷田小	ウサギ					0	0	−1	困ったことはその都度獣医師に連絡して解決していた。飼育数増数とその際のストレスなど質問があった。雌雄判別要望。 12月24日に最後の1頭も亡くなる。
	飼育が無くなった								
大谷場小	チャボ	1					1	0	毎年担当の先生が替り、高齢のチャボなので戸惑いがあるようす。
	ウサギ		0				0	−1	
大谷場東小	ウサギ	1		1			2	0	拾ったウサギを飼育している。
善前小	ウサギ		2				2	0	毎年夏に土を取り、秋に新しい土を入れているので衛生状態も良好。
芝原小	ウサギ	1					1	0	子供に任せきりになってしまい世話が不十分だった。1頭死亡し年末に新規導入した。 飼育状態は良好。爪切りを行った。
三室小	飼育無し								耐震工事でしばらく飼育舎使用不可。将来的には検討したいと思っている。
野田小	ウサギ	1					1	−1	体調を崩した時に飼育舎以外で世話する時の管理について知りたい。 無料診療の確認をお願いしたい。 ウサギ第３眼瞼過形成・軽度結膜炎あり。点眼薬処方。チャボの蹴爪切りを行った。
	チャボ	1		0			1	−1	
大門小	ウサギ	2					2	0	病気になった時の通院に困る。 飼育状態は良好。皮膚炎・脱毛個体あり、通院している。
大牧小	ウサギ	1					1	0	ウサギの歯茎から感染があり頬が膨れて治療等に困った。そのウサギは死亡した。 ウサギ脱毛あり、受診検討してもらう。ウサギ爪切り、チャボ蹴爪切りを行った。 ウサギ新規導入を検討したいとのこと。
	チャボ	1					1	0	
仲町小	ウサギ	3		3			6	−2	死亡時の処置と原因に困惑。突然死があり病気か年齢か世話足らずか悩んだ。疾患について簡単なパンフレットみたいなものがあると、どこまで治療するかとか判断に良いと考えている。 1頭強いオスがいて、そのせいか1頭右耳切傷あり。陳旧創なので無処置。オスで後駆不全麻痺の個体あり。軽度なので様子見る。
	モルモット					4	4	4	
	ウコッケイ			2			2	0	
	チャボ			0			0	−1	
常盤小	チャボ	1					1	−1	チャボは若く健康。一昨年度はウサギを飼育しており、環境は整っているが今後は未定とのこと（どうも積極的ではない）。
	ウコッケイ			0			0	−1	
与野南小	飼育無し								
浦和別所小	ウサギ	2					2	0	ウサギの病気やけがの対応が分からない、飼育舎の衛生管理が困難と悩む。 軽度の斜頸を呈する個体あり。変化があれば受診するように指導。春先に血尿等を呈した個体あり。今は問題ないので様子見とした。
	チャボ			2			2	0	
南浦和小	ウサギ	3		3			6	2	ウサギが年に何回か子供を産むが育たない、飼育舎のコンクリート床の水はけが悪く匂いも気になるとのこと。3連休で教職員が世話。 ウサギの健康状態は良好。不用意な繁殖より不妊手術で落ち着いた環境継続を提案。

岸町小	ウサギ	1		6			7	1	児童の活動時間が十分に取れない（今は20分休みと昼休み）。月１回の委員会は話し合いで終わるとのこと。 ２頭は個別飼育、５頭は多数飼育。５頭の中にオスがいるため分離または不妊手術を提案。また個別の２頭に比して５頭の体格が劣るため個別飼育を含め飼育環境の改善を提案。
高砂小	ウサギ			2			2	0	長い連休の場合教職員が世話に来る。 もともとクジャクを入れていた飼育舎で広すぎて半ば野生のような状態で飼育している。２頭とも今のところ健康に問題はなさそうだが姿を見ることもまれで詳細は分からず。
西浦和小	ウサギ	1		1			2	1	病気の判断、適切な餌やりなどの飼育法、児童との触れ合いの設定等で悩む。 無料診療を利用してうまく飼育ができている。 長期休暇の問題はこちらから説明しにくいので少しずつ努力していただくよう説明しました。
	モルモット	2					2	2	
田島小	飼育無し								飼育舎がもう４年ぐらいそのままに。学校飼育は有意義であると思われているのならとにかく飼育を始めてもらうように説明しました。
沼影小	ウサギ		2	3			5	−1	長期休暇の世話に悩む。獣医師に感謝の意。 モデル校として発表しているので飼育環境に問題は無し。長期休暇の問題は中川先生主催の研究会等に参加されると父兄の参加の仕方がいつもでてきているのでヒントがあると思います。
辻小	ウサギ	3					3	0	ダニやシラミの発生で衛生面（飼育舎、子供による世話）の心配事が増えたこと。土日の世話を職員に依頼しなければならないと悩む。飼育動物の管理に指導、協力を要望。獣医師に感謝の意。 無料診療を利用してうまく飼育ができている。 やはり長期休暇の問題はあります。
	ウコッケイ	1					1	0	
辻南小	飼育無し								モルモットで良いから校内で飼育を始めてみることを勧めた。
文蔵小	チャボ	5		10			15	0	休日の当番体制の整備に悩む。 死亡例には２，３日の病状悪化の経過があったようなので、電話相談だけでもしていただければよかったと感じました。この学校は鳥が中心なのでその他チェックすることが少なかったです。長期休暇には問題あり。
	ウコッケイ			1			1	1	
浦和大里小	ウサギ					4	4	0	休日が長く続く時（ゴールデンウィーク等）の世話をどうするか悩む。1月に越谷・花田小より3頭導入した。 学年飼育をしている学校なので続けて良い効果を発表していただけるようになると良いと考えます。それでも長期休暇の問題があるようです。学校に来て世話が難しいのであれば１週間ぐらいずつもちまわり等で対応できないか提案しました。

別表２－５　平成21年度さいたま市学校飼育動物巡回診察治療・各校の状況（H22/1/25実施）

（注）増減は昨年比。飼育数での０表示は昨年度まで飼育があったもの。

学校名	飼育動物数								報告欄
	動物種	オス	去勢	メス	不妊	不明	合計	増減	（現状・指導・治療・獣医師の意見）
大宮東小	ウサギ					2	2	0	飼育舎の衛生面（特に夏場に虫が沸く）に困惑。普段の土日に飼育ボランティアの協力あり。飼育舎の虫に関しては採取して動物病院へ持って行くように指導した。
	ニワトリ	2		1		0	3	−4	
芝川小	ウサギ	1		2			3	0	１円募金を行い、試料代に充てている。獣医師に感謝あり。 オスのニワトリにハジラミ発生があった。今後、イベルメクチンにて治療予定。
	ニワトリ	2		1			3	−1	
大宮南小	ウサギ	2		3			5	−1	１羽根尖膿瘍のためか右眼腫脹・流涙あり、受診指導した。
大宮北小	ウサギ	2		2			4	−1	長期休暇は日直の先生が世話する。 平成23年度から1,2年の生活科で動物飼育活動が入ってくるが動物の数が少ない学校では困っていると聞いた。本校では分離飼育などで繁殖しないようにしているが、繁殖させて分けてあげるのはどうなのか（近親交配にもなる）知りたい。 木床のウサギのみ爪過長のため爪切り。
	チャボ			1			1	0	
海老沼小	ウサギ					7	7	0	地域ボランティア（獣医師）あり、健康管理に注意して下さっている様子。動物の世話・管理・衛生面で悩む。獣医師に感謝あり。 床を土からコンクリートに変更を検討中。
大谷小	ニワトリ	2		2			4	0	飼育舎の老朽化・排水溝等に悩む。ウコッケイの見分けがつかないことに困る。 ウコッケイの個体識別はマジックでマークするのが手軽と教えた。蹴爪切り実施した。
	ウコッケイ	4		3			7	−2	
七里小	ウサギ			2			2	1	長期休暇・病気に対する対応に困る。獣医師に感謝の意。 巡回１週間前に他校よりメスウサギ１頭導入したが、喧嘩をしてしまう。１頭が右後肢腫脹していたため引き取って治療することとした。床を土からコンクリートにする様指導した。
東宮下小	ウサギ	1					1	1	（一昨年一時飼育無し。新規導入。）
片柳小	ウサギ	1					1	0	ウサギが高齢なため次の個体の導入について検討していただく様に伝えた。
	ウコッケイ			0			0	−1	
道祖土小	ウサギ	1		1			2	0	昨年の指導に応えていただき飼育舎の下半分程度が被ってあり防風対策良好。反面、日差しがさえぎられるので南側を開ける工夫をして欲しい。ステンレス食器の新調もあり清掃状況も良好。ただし飼育舎の天井裏（明り取りの金網）が破損・消失しており緊急に野鳥対策が必要。
中尾小	ウサギ			1			1	−1	1月8日にメスウサギ１頭が死亡。朝は通常通りに見えたが昼頃には衰弱・横臥。経過が早く受診はしなかった。飼育舎は防寒対策が全くなく寒冷の影響か？個体数減少のため新規導入も考え、丈夫で飼育しやすい動物に関して質問される。
	チャボ			1			1	0	
原山小	飼育無し								（校長先生と立ち話）飼育はないが熱帯魚やカメ、虫等飼うクラスあり。一昨年に最後の個体が死亡したときに遺体の処理や児童への対応について苦慮し、新規導入を保留した経緯あり。大崎の処理業務について伝えた。情操教育ということであれば慰霊碑や追悼集会を開くことも一考か。

仲本小	ウサギ			1			1	0	メスウサギ（11歳）は先日、左後肢大腿部骨折で受診。麻酔下での呼吸停止等で処置困難な状況もあったが現在は生活範囲での移動は支障がなさそう（それなりに化骨？）。結膜炎・白濁で点眼薬処方を考えたが担当生徒の技術や保定時の落下リスクを考えて中止。防風対策（飼育舎に防風材を張る等）の代わりに今期は段ボール箱が用意されていたがコンクリート床に敷き藁もなく、防寒的には今ひとつ。
本太小	チャボ			1			1	0	高齢チャボ（9歳以上）1羽のみを継続飼育。個体数が少ないので新規導入について意見を求められる。野鳥侵入防止のため数年来指導してきた飼育舎の屋根の穴はベニヤ板で補修してあり評価できる。
大東小	チャボ	1		2			3	1	無料診療制度に感謝の意。 毎年産卵している番の卵が8月に孵化し、雛（メス1羽）が順調に生育。家族で和やかに生活している。飼育舎は風除けがなくコンクリート床だが寝床に相当する手製の木箱があり中には干し草（ティモシー？）が敷きつめてある。昨年からメスが産卵しなくなったと相談があり、配合飼料の他に貝殻を加えることをアドバイスした。

別表３　　平成19～21年度　さいたま市学校飼育動物飼育頭羽数

動物種	平成19年度　103校（6校は動物飼育なし）									平成20年度　102校（10校は動物飼育なし）									平成21年度　104校（12校は動物飼育なし）								
	オス	去勢	メス	不妊	不明	合計	前年との増減	飼育学校数	1校平均飼育頭数	オス	去勢	メス	不妊	不明	合計	前年との増減	飼育学校数	1校平均飼育頭数	オス	去勢	メス	不妊	不明	合計	前年との増減	飼育学校数	1校平均飼育頭数
ウサギ	92	18	144	1	55	310	-62	77	4.0	88	18	109	2	36	253	-57	72	3.5	72	20	88	3	32	215	-38	70	3.0
モルモット	0	0	0	0	20	20	+7	2	10.0	0	0	0	0	3	3	-13	1	3.0	5	0	0	0	4	9	+6	3	3.0
ハムスター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	+2	1	2.0
ニワトリ チャボ シャモ	70	0	108	0	18	196	-42	54	3.6	69	0	71	0	11	151	-41	44	3.4	34	0	56	0	9	99	-52	29	3.4
ウコッケイ	12	0	17	0	1	30	+23	12	2.5	8	0	14	0	2	24	-6	13	1.8	19	0	23	0	2	44	+18	18	2.4
インコ類	0	0	0	0	11	11	+5	3	3.7	0	0	0	0	19	19	+8	2	9.5	0	0	0	0	13	13	-6	2	6.5
カモ類	0	0	0	0	1	1	-1	1	1.0	0	0	0	0	1	1	0	1	1.0	0	0	0	0	1	1	0	1	1.0
アヒル	0	0	0	0	1	1	-3	1	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
ハト	0	0	0	0	0	0	-4	0	0.0	0	0	0	0	1	1	0	1	1.0	0	0	0	0	1	1	0	1	1.0
クジャクバト	0	0	0	0	1	1	+1	1	1.0																		

別表4　平成21年度　さいたま市学校飼育動物無料治療

（平成21年3月1日から平成22年2月28日まで）

	報告日	学校名	宅診・往診・電話相談	動物種	性別	通院の有無と通院日数	入院の有無と入院日数	手術・麻酔処置の有無	病名・相談・来院理由	転帰
1	4月23日	A校	宅診	ウサギ	不明	1	－	－	前庭障害（斜頸）、結膜炎	経過観察
2	5月8日	A校	宅診	ウサギ	不明	1	－	－	前庭障害（斜頸）、結膜炎	経過観察
3	5月27日	B校	宅診	ウサギ	不明	－	2	－	低体温症（発育不良）	死亡
4	6月5日	C校	宅診	ウサギ	不明	－	13	有り	眼瞼裂傷、角膜潰瘍	良好
5	6月5日	C校	宅診	ウサギ	不明	－	3	－	脱毛症、角結膜炎	良好
6	6月16日	A校	宅診	ウサギ	不明	1	－	－	前庭障害（斜頸）、結膜炎	経過観察
7	6月23日	D校	宅診	ウサギ	オス	1	－	－	白内障、元気消失、るい痩	経過観察
8	7月3日	E校	宅診	インコ	不明	1	－	－	嘴の変形（腫瘍性）	不明
9	7月24日	F校	宅診	ウサギ	不明	1	－	－	眼瞼腫瘤（麦粒腫）、爪の過長	不明
10	7月24日	F校	宅診	ウサギ	不明	1	－	－	爪の過長	不明
11	7月30日	G校	宅診	ウサギ	不明	－	14	－	後肢不全麻痺	不明
12	8月3日	F校	宅診	ウサギ	不明	1	－	有り	アブセス、爪の過長	不明
13	8月17日	F校	宅診	ウサギ	オス	1	－	－	アブセス抜歯	不明
14	9月6日	H校	宅診	ウサギ	不明	1	－	－	過長歯（切歯）	不明
15	9月21日	I校	宅診	ウサギ	メス	－	5	有り	大腿部腫瘍	不明
16	10月10日	H校	宅診	ウサギ	不明	1	－	－	過長歯（切歯）、爪きり	不明
17	11月20日	H校	宅診	ウサギ	不明	1	－	－	過長歯（切歯）、爪きり	不明
18	12月25日	H校	宅診	ウサギ	不明	1	－	－	過長歯（切歯）、爪きり	不明
19	1月18日	J校	宅診	ウサギ	不明	1	－	－	外傷	不明
20	2月6日	K校	宅診	ウサギ	不明	1	－	－	切傷、生爪	不明
21	2月15日	L校	宅診	ウサギ	不明	－	4	－	後肢腫脹	経過観察
22	2月24日	M校	宅診	ウサギ	メス	3	－	－	妊娠診断、爪から出血	不明
23	2月24日	M校	宅診	ウサギ	オス	7	13	有り	過長歯による不正咬合	不明
24	2月24日	N校	宅診	ウコッケイ	メス	1	－	－	ニワトリハジラミ	不明
25	2月24日	N校	宅診	ウサギ	オス	7	－	－	後肢跛行、ウサギツメダニ、不正咬合	不明
26	2月28日	O校	宅診	ウサギ	オス	3	－	－	前庭障害（斜頸）	経過観察
27	2月28日	P校	宅診	ウサギ	オス	9	－	－	皮膚炎	経過観察

治療費
9,860
9,100
10,000
84,578
49,298
9,800
13,335
2,700
4,400
2,200
64,050
16,380
1,200
2,000
70,000
4,000
4,000
4,000
7,500
5,100
12,810
7,500
140,500
2,500
33,000
7,630
30,770
合計　608,211